

入居者 インタビュー

『喜びは皆と分かち合い 笑顔のある人生を』

古郡 民雄様（84歳）・迪子様（82歳）



「おはよう」「いつもありがとう」古郡様の歩くところにはいつも明るい声が響きます。施設に元気を与えて下さっている古郡夫妻にお話を伺いました。

〈人生の選択〉

ご主人「昔から、困った人がいると放っておくことができない性格で、学校・職場・カトリック青年労働者連盟と、さまざまな出会いを通じて困っている事に正面から向き合い前に進んできました。38歳で幼稚園を立ち上げた事も大きな選択でした。」

〈希望の幼稚園設立 に向けて〉

ご主人「2200世帯の公団住宅に転居した時、ベビーブームだったので、団地内だけで440人の子供達が生まれ、保育園・幼稚園が足りない事に不満



が積っていました。妻も幼稚園が積んであった為、幼児教育の必要性を感じていました。

皆さんの要望を受けて立ちあげ、1970年によく幼稚園が設立できました。最初はプレハブの建物で51人の園児保育から始めました。ところが、わずか3カ月で放火事件に遭い、これ以上は無理かと一度は閉園を考えましたが、子供達の目を

見たら止めることができなかったんです。」奥様「この時、6人目を産し

たばかりで、五男一女の子供達を育てながら、必死に幼稚園の保育、運営に携わってきました。大変でしたが、苦労だとは思わなかったですね。ただ、手を掛けてやれなかった子供達がぐれないようにいつも心配でした。『背中を見ていたらくれることなんかできないよ』と、子供達が後になって話してくれた時はありがたかったです。」

ご主人「子供達一人ひとりの人格を尊重できる保育を望み、軽度障害児と健常児が一緒の保育や違年齢保育に挑戦しました。初めてのことでしたが、園児達の向上心が芽生えてきたことから、地域の方々にも理解され、今では、園児210人の幼稚園になり、止めなくて良かったです。」

〈最後の楽園探し〉

ご主人「80歳になったら現役を退き、子供達に迷惑をかけないで自分達の老後を過ごそうと考えました。温泉付き・ゴルフ場に近い・美味しい魚が手に入りやすい・海が見える・教会に近い等、私達の夢の条件が叶

えられる人生最後の楽園を湯河原に決めました。今は、ゴルフを楽しんだり、旅行に出かけたり、妻はコーラスを楽しんでいます。ここでは一人ひとりの人格を尊重しながら毎日の生活を楽しんでいきます。声をかけて喜びを分かち合う。皆さんが元気に明るく生活ができるように心掛けていきます。」



と、お二人は、明るくお話をして下さいました。

※今年、古郡様に届いた在園児からの年賀はがきが1等当選されました。「在園児から届いた年賀はがきだから、有意義に使いたい」との願いから当選金を原資として、経済的理由で退園を余儀なくされる園児の為に、新しい育英資金制度を始められました。